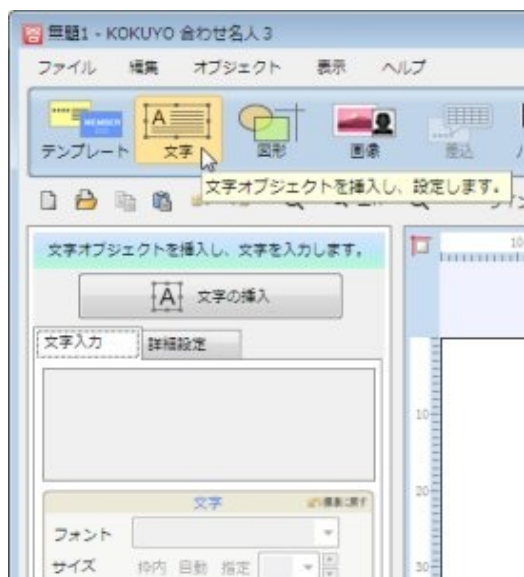
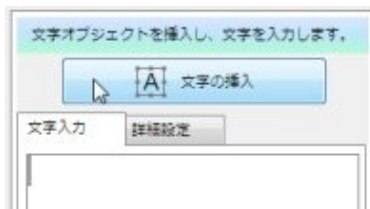


作成手順

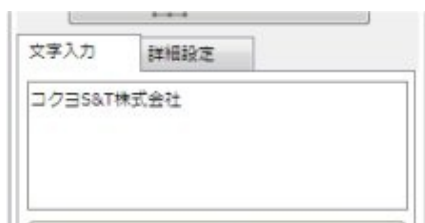


ツールバーの「文字」ボタンをクリックします。
「文字」ボタンをクリックすると、画面左のプロパティボックス部の表示が切り替わり、以下のような画面が表示されます。

次に「文字の挿入」ボタンをクリックしましょう。

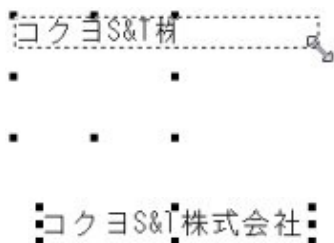
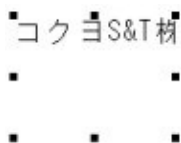


下部のテキストボックスにカーソルが表示され、用紙の中央に空の「文字オブジェクト」が生成されました。



テキストボックスに文字を入力しましょう。
テキストボックスに点滅しているカーソルが表示されています。文字を入力しましょう。

文字を入力すると用紙上の空のオブジェクトに入力した文字が表示されます。



オブジェクトエリアを調整しましょう
文字数によっては最初に生成された文字オブジェクトでは表示しきれないことがあります。その場合、文字オブジェクトの周囲にある「黒い点(ハンドル)」をマウスでつまんでドラッグすることで、オブジェクトエリアの調整ができます。

文字の入力できました。

文字オブジェクトの各種設定

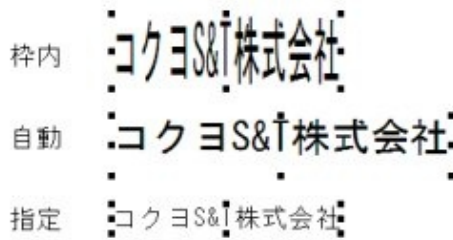
文字の入力ができたら、入力した文字をデザインに適したフォントやサイズ、その他の設定をしましょう。

設定には文字入力を含む基本的な設定を行う「文字入力」タブと、当ソフト独自の特殊な設定を含む「詳細設定」タブが用意されています。各種設定の内容は以下のとおりです。

「文字入力」タブ (文字)

フォント
フォントの種類を変更します。デフォルトフォント(初期値として設定されているフォント)に何も設定されていない場合は、「MS ゴシック」が既選択されています。

文字モード
文字モードには、3つのモードが用意されています。



・枠内モード

オブジェクトエリアのサイズに縦横ともにフィットさせるモードです。縦長や横長の文字を作成できますので、タイトル文字や見出しなどに利用できます。サイズボックスは無効になります。

・自動モード

オブジェクトエリアサイズによって自動的に文字の大きさを決定できるモードです。用紙全体のデザインを見ながら視覚的に文字サイズを決定することができます。サイズボックスは無効になります。

・指定モード

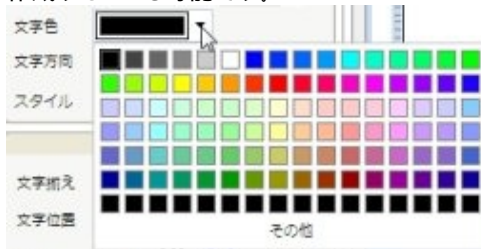
通常の文字モードで、サイズボックスで指定した文字サイズで、オブジェクトエリアサイズには連動せずに作成表示します。このモードがデフォルト(初期値)に設定されています。

サイズ

サイズボックスはフォントの大きさを選択できます。フォントサイズは「1～999ポイント」まで指定できます。サイズボックスにマウスカーソルを置き、数値による直接入力も可能です。

文字色

文字の色を指定します。〔 〕ボタンをクリックすると、標準色パレットが開きますので、お好みの色を選択してください。また、〔その他〕をクリックすることにより、Windows標準パレット画面が表示されますので、パレットにはない色を作成することも可能です。



文字方向

文字の縦書き / 横書きを選択できます。

スタイル

文字スタイルを選択できます。「B」はボールド(太字)、「I」はイタリック(斜体)、「U」はアンダーバー(下線付です。)

「文字入力」タブ (配置)



文字揃え

入力した文字列がオブジェクトエリア内横方向のどの位置に配置するかを選択します。左から「左揃え」「中央揃え」「右揃え」「均等配置」となります。複数行入力の場合も可。

文字位置

入力した文字列がオブジェクトエリア内縦方向のどの位置に配置するかを選択します。左から「上揃え」「中央揃え」「下揃え」となります。複数行入力の場合も可。

間隔

入力した文字列の「文字間隔」と、複数行入力された文字列の「行間隔」を数値で指定できます。

「詳細設定」タブ (回転)

文字の回転

作成した文字オブジェクトを90度単位で回転することができます。左から「0度」「90度」「180度」「270度」となります。



「詳細設定」タブ (高度な設定)

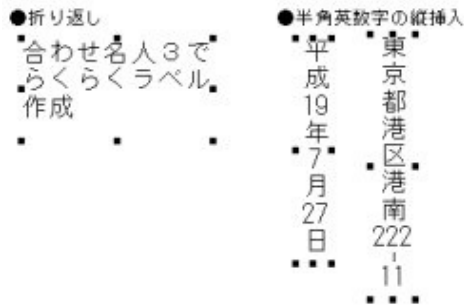


折り返し禁止

デフォルト(初期値)ではこの項目にチェックがついていますが、チェックをはずすと下図のようにオブジェクトエリア内で入りきらない文字を自動改行して複数行で表示します。

半角数字の縦挿入

縦書きに設定された文字列内に半角数字が含まれる場合、この項目にチェックを入れることにより、下図のように数字のみを縦に挿入します。縦挿入できる桁数は「5桁」までです。



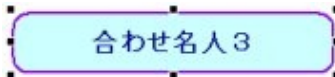
自動縮小

差込オブジェクトとしてデータベースから差込文字を生成したときのみ有効になる機能です。差込文字オブジェクトに対して、この項目にチェックを入れるとデータベースから文字列を差し込む際、オブジェクトエリアサイズ内で文字列すべてが表示されるように文字サイズをレコード毎に自動調整する機能です。

「詳細設定」タブ (文字枠)



文字枠機能は文字を囲むオブジェクトエリアに対して、塗りつぶしや線表示を設定する機能です。下図のように文字の見出しやタイトルなどに使用すると効果的だと思います。



また、前述の「文字入力」タブ(配置)で説明した「文字揃え」「文字位置」も併用するとよいでしょう。

塗りつぶし

オブジェクトエリア内の背景色を設定します。〔 〕ボタンで標準パレットが表示されます。表示されたパレット内の〔その他〕をクリックすることで、Windowsのパレットが表示され、色の作成も可能です。

線種

オブジェクトエリアを囲む線の種類を設定します。〔 〕ボタンで実線や破線などが選択できます。

太さ

上記で選択した線の太さを設定します。太さの設定が可能なのは「実線」のみとなっています。他の線種はすべて「1ドット罫」での使用となっています。

色

上記で指定した線の色を設定します。〔 〕ボタンで標準パレットが表示され、表示されたパレット内の〔その他〕をクリックすることで、Windowsのパレットが表示され、色の作成も可能です。

角の丸み

オブジェクトエリアの角に丸みを付けます。線または塗りつぶし色が設定されているときのみ有効な機能です。丸みは縦/横個別に指定できますが、〔縦横同じ〕にチェックを入れておけばいずれかの数値に両方を合わせます。